

“そうか！なるほど！もっとできるぞ！”であふれる庄内っ子

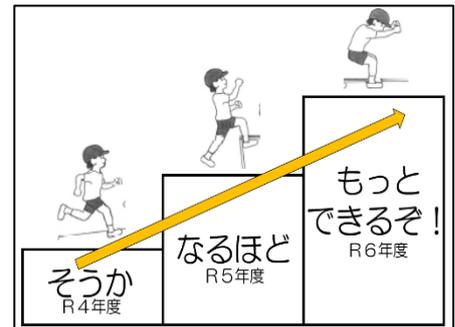
1 研究のねらい

昨年度より児童の「主体性」を育むことをねらいとして、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を意識した研究を進めている。昨年度は、主に個別最適な学びに重点を置き、一人一人の児童が、自分に合った課題の解決方法やまとめ方を提示されたものから選び、学習を進めた。そのため、児童は意欲的に学習に取り組むことができ、自分の考えや成果物に満足感を得ている様子（「そうか！」に当たる姿）であった。

しかし、満足感をただで終わってしまい、友達の考えを参考にしたり、友達の作品のよさに目を向け自分に取り入れようとしたりする姿が少なかったという課題が出た。また、教師側の課題設定を達成したものの、より高い課題を与え、「一人では解決できない」という経験をさせることも必要なのではないかという意見も出た。

そこで今年度は、「協働的な学び」に重点を置き、研究を進める。文部科学省に記載されている答申を要約すると、協働的な学びとは、「児童一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせり、よりよい学びを生み出すこと」とされている。昨年度の授業展開に加え、協働的な学びの場面を取り入れることで、新たな発見（「なるほど！」に当たる姿）をさせ、より学習意欲を高め、主体性を育むような授業展開を目指していく。その際、昨年度、一人一台タブレットを使うことが目的化してしまい、本時の目標からそれてしまったという課題も出されたので、手立てが目的ではなく、手段となるよう「何のためにその手立てを取り入れるのか」を特に意識して授業を行うようにする。そして、来年度は、個別最適な学びと、協働的な学びをより一体的に充実させることで、さらなる主体性（「もっとできるぞ！」の姿）を育成していきたい。

さらに、日常から、伝え合いの活動を行う意義を感じさせ、児童が「考えを発表しやすい」と安心感を抱くことができる学級の雰囲気づくりも意識して、研究を進めていく。



【努力点構想図】

2 研究の方法

(1) めあての設定

(2) 実践プランの作成

「なかまなビジョン」の基盤づくりとして挙げられる、学級の雰囲気づくりや学習規律の確立を意識して日々の教育実践に取り組む。

特定の教科に絞らず、発達段階や児童の実態に応じた学習活動を展開する。

(3) 授業研究

① 授業参観で年間1回以上、努力点に関係する授業を行う。

② 各学級担任及び専科、養護、栄養教諭が12月末までに1回、授業公開する。

③ 専科、養護、栄養教諭が行う授業は、授業を行う学年の先生が参観する。その際、担任は、T2の役割を果たすことも可とする。

④ 事前事後検討を各学年で行う。

⑤ 代表者1名が指導案（略案）を作成し、全体授業を行う。